

公的年金の積立金を国債や株式などで運用する年金積立金管理運用独立法人（GPIF）は7月10日、2014年度の運用実績の黒字額が15兆2922億円になったと発表した。

黒字額は2013年度（10兆207億円）から拡大し、過去最大となった。GPIFは2014年10月に国債を中心にした安全重視の運用から、株式の比率を高める積極的な運用に切り替えており、株価が順調に上昇したことが黒字につながった。

政府は2014年度の収益率を1.34%と仮定して将来の年金財政を試算しており、実際の収益率が大きく上回ったことで、年金財政の一定の改善につながったとみている。

ただ、乱高下する中国株などの影響で、日本の株価も値動きが激しい。今年3月末の運用資産額のうち、国内株式の割合は20%強まで高まっている。GPIFの試算によると、2008年のリーマン・ショックと同等の株価下落があった場合、現在の積極的な運用だと約26兆円の赤字になるという。

年金制度は長期間にわたる財政の安定が重要であることから、「単年度の黒字で一喜一憂するべきでない」との声が出ている。 （2015/07/11 読売新聞から）